

しつ こうじょう めざ
「生活の質の向上を目指して」

けいざい せかい じゅうよう ちい し
日本は、経済大国になり世界で重要な地位を占めるようになって来た
が、最近主に経済的な理由で外国から様々な批判を受けている。

す ろうどう たんしゆく けいざい かに
日本人は働き過ぎだから労働時間を短縮すべきだ、日本経済は家庭
生活の犠牲のうえに成り立っている、経済にばかり目を向けなくて
社会福祉をもっと重視すべきだ、などいろいろなことが新聞や雑誌を
賑わしている。要約すると、日本は経済の成長にばかり重点を置か
ず、人間らしい生活を追い求め、国民の生活の質を向上させるべきだ
、ということらしい。

ひはん いたい けいざいかい せいじ こくみん
外国からのこれらの批判に対して、経済界や政治家が、国民の生活の
レベルを上げるため、完全週休二日制の導入、年間労働時間を1
900時間前後に短縮、子供の出生時に男性も長期間休めるような
新しい産休制度の確立、などに向けて努力する旨を表明している
が、実現にまだ程遠いものが殆どである。仕事が最も重要、仕事が
生きがい、と考える「仕事中毒」的な人間が多い日本人の
サラリーマンの意識を変えない限り、生活の質を向上させることは
ふかのう
不可能なのではないだろうか。

しょくじん しごと ちゅうしん かんがえかた かに じく
日本の男性諸君に、仕事中心の考え方から、家庭を軸にした生活
中心の考え方に意識の変換をさせるために、いろいろな手段がある
だろうが、最も効果的な手段の一つは、女性が男性中心の社会

にたい はんらん お たちあ かてい まも かじ
 に対して反乱を起こし、立ち上がることである。家庭を守り、家事
 いっさい きりも たいへん いくじ きょういく
 一切を切り盛りするだけでも大変なことなのに、かつ育児、教育を
 たんとう とお たち す
 すべて担当し、ボランティアなどを通して自分達の住む
 かつどう こうけん とく つまたち はんらん お
 コミュニティーの活動に貢献する女性、特に妻達が、反乱を起こし
 すこ
 たら、どうなるか、少し考えてみたい。

ばあい しごと いそが かいしゃ のこ ざんぎょう
 サラリーマンの場合、仕事が忙しくなれば会社に残って残業をする。

ざんぎょう しゅふ ばあい かえ おそ おつと
 サラリーマンに残業はつきものだが、主婦の場合、帰りが遅い夫を
 ま しんや お ざんぎょう み おつと
 待って深夜まで起きていても、それは残業とは見做されない。夫

み やしな よるおそ しごと
 から見れば、自分が家族を養うために夜遅くまで仕事をしているのだ

つま お ま とうぜん つま
 から、妻が起きて待っているのが当然、と考えるかもしれない。妻が

せんぎょうしゅふ ばあい とく つま かじ いっさい
 専業主婦の場合、特にそう考えがちだ。が、その妻は、家事一切を

おつと たす めんどろ み
 夫の助けなしで一人でやり、子供の面倒も一人で見ている。

ばあい かつこ しごと
 キャリアウーマンの場合は、そのうえ、確固とした仕事もしている。

おつと おそ かえ しょくじ ようい ふうろ
 それなのに、夫が遅く帰って来てから、食事の用意をしたり、風呂の

せわ ふく あとしまつ おつと はなし しごと じょう ぐち
 世話をしたり、服の後始末をしたり、夫の話や仕事上の愚痴を

あ ざんぎょう なに りっぱ ざんぎょう
 聞いて上げるのが、残業でなくて何であろう。立派な残業である。

かいしゃ ばあい ざんぎょう きんむ ない きゅうりょう
 会社の場合、残業でもらうカネは勤務時間内の給料の30?50%

ま つま ざんぎょう おな けいさん ほうだい がく
 増しである。妻の残業も同じように考えて計算したら、膨大な額に

むりょう おつと ほうし
 なるはずである。それを、無料サービスとして夫に奉仕しているのと

おな おつと かてい む きたく はや
 同じことになる。夫の目を家庭に向けさせ、帰宅時間を早くさせる

いっしょ す ふ
 ためにも、かつ家族が一緒に過ごせる時間を増やすためにも、10時

いこう ざんぎょう ぜんめんてき きよひ
 以降の残業 を全面的に拒否してみてもはどうだろうか。

つき おっと やしな ぎせい ちょうじかん
 次に、夫 は、自分は家族を養うために自分を犠牲にしてまで長時間
 よるおそ ちょうじかんよるおそ しごと
 夜遅くまで働いている、と考えがちである。長時間 夜遅くまで仕事を
 する、というのは事実である。ところが、実際 は、仕事のことしか考え
 ず、家事、育児、子供の教育、妻や子供との精神的な触れ合い
 じゅうよう きょうみ ばあい おお しょうこ
 の重要 性などにあまり興味 がない場合が多くある。その証拠 に、
 やす あそ つか い まえ
 休みの日に、子供と遊ぼうとせず、「疲れた」と言ってテレビの前で、
 ね じょう
 ごろごろ寝ていたり、一人でゴルフのバッティング場 やパチンコへ
 おお おっと も ふこう つまたち
 いったりする男性が多い。このような男性を夫 に持った不孝な妻達 に
 かいしゃ せんたく せま かいしゃ
 できることは、会社 と家族の選択 を迫ることである。会社 と家族で
 じゅうよう しごと なに
 どちらのほうが重要 なのか、仕事は何 のためにあるのか、家族として
 きょうどう いぎ なに といつ おっと
 共同 生活をする意義は何か、と問い詰めるのである。夫 がそれでも
 かいしゃ じゅうよう こた じゅうよう みと
 会社 のほうが重要 だ、と答えたら、「家族に重要 性を認めない人と
 きょうどう いみ わたし りこん かいしゃ けつこん
 共同 生活をして意味がない、私 と離婚して、会社 と結婚しなさい
 い きょうどう ぶりこう さいばんしょ うった ほうがい いしゃ りょう
 。」と言い、共同 生活不履行で裁判所に訴え、法外な慰謝料 を
 ようきゅう おっと いかく ぶつう かてい ない ふしょうじ
 要求 するぞと、夫 を威嚇すればいいだろう。普通、家庭内の不祥事
 しゅつせ えいきょう こと あらだ おっと たいはん
 は出世 にも影響 するし、事を荒立てたくないと思える夫 が大半 だろ
 うから、成功 する確率は高い。また、夫 が家庭の重要 性を認識し
 だいじ やくそく へいじつ しごと しゅうまつ
 、もっと家族を大事にすることを約束 したら、平日 は仕事、週末 は
 かてい かんぜん ぶんり しゅうまつ きゅうじつ す
 家庭、と完全に分離して、週末 や休日 には家族のために過ごすこと
 やくそく
 を約束 させればいいのではないだろうか。

はんらん ばんめ きょういく ほうき きょういく おっと
 反乱の3番目として、「教育ママ」を放棄して、子供の教育に夫
 む げんざい おお かてい
 の目を向けさせることが考えられる。現在、多くの家庭で、子供の
 きょういく たんとう つま かのじょたち ぎせい
 教育を担当しているのは妻である。彼女達は、自分の生活を犠牲に
 いちりゅう にゅうがく どりよく
 してまで、子供を一流大学へ入学させるために努力している。子供
 きょういくひ かくほ
 の高い教育費を確保するために、ドレスなど自分のために買いたい
 せつやく がまん
 ものも買わずカネを節約し、自分のしたいこともせずに我慢する。
 いっぽう たちば きょういく あつりよく
 一方、子供の立場から考えると、「教育ママ」からの圧力で、
 べんきょう せいしん
 いつも勉強ばかりさせられ、あまり自分の好きなこともできず、精神
 てき ちくせき じょうたい きょういく たちば
 的にストレスが蓄積する状態にある。母親が「教育ママ」の立場を
 ほうき べんきょう かいほう べんきょう いがい
 放棄して、子供を勉強から解放して、勉強以外に本来子供がすべき
 じゅう
 ことを自由にさせることにしたら、それは、母親にとっても子供
 ふ いま べんきょう
 にとってもプラスになることが増えることになる。今まで子供に勉強
 つね しんけい つか つまたち もうすこ
 させることに常に神経を使ってきた妻達は、もう少し自分の人生の
 よゆう でき たち べんきょう べんきょう れんぞく いちりゅう
 ことを考える余裕も出来る。子供達に、勉強、勉強の連続で一流
 こう はい べんきょう いがい けいけん ゆた
 校に入るより、勉強以外のことをいろいろ経験して、豊かな人生を
 おく てき きょういく たち
 送るほうがより人間的だ、という教育をする。子供達にとっては、
 じゅけん べんきょう じゅうあつ かいほう じゅう けいけん かのう
 受験勉強の重圧から解放され、自由な生活を経験することが可能
 になる。

にたい いま きょういく つま たよ おつとたち
 これに対して、今まで子供の教育をすべて妻に頼って来た夫達、
 いちりゅうこう い いちりゅうきぎょう い きょういく さいこう
 子供を一流校に入れ、一流企業に入れるための教育が最高の

きょういく おつとたち おちい つまたち
 教育 と考えている夫 達は、パニックに陥るであろう。妻達の新しい
 かんがえかた いま とお かんがえかた か
 考え方を今まで通りの考え方に換えようとするか、あるいは自分から
 すす きょういく とく こうしゃ
 進んで子供の教育 をすることにしようとするであろう。特に、後者の
 えら おつと おお かいしゃ ちゅうしん かんがえかた うす
 ほうを選ぶ夫 が多くなればなるほど、会社 中心 の考え方が薄れ、
 かてい む おお ばあい もはや
 家庭に目を向ける男性が多くなるであろう。いずれの場合でも、最早
 かてい むし しごと はげ つかのう おつと かんしん しょくば
 家庭を無視して仕事に励むことは不可能になり、夫 の関心が職場 から
 かてい うつ たし
 家庭に移ることは確かである。

だい しゃかい じゅうよう にんしき
 第 4 に、この社会 のなかでの女性の重要 性を男性に認識 させるため
 ろうどうりょく てき ひきあ ていしょう
 に、女性の労働力 を一時的にすべて引き上げることを提唱 する。
 さいぎん しゃかい かつやく ぞうか しゆふ
 最近 キャリアウーマンとして社会 で活躍 している女性が増加し、主婦
 はんすういじょう しごと ろうどうりょく おお ぶぶん
 の半数 以上 がパートの仕事をしていて、日本の労働力 の多くの部分
 ろうどうしゃ し こと だいさんじ さんぎょう ぎょう
 を女性労働者 が占めている。殊に、第三次産業 のサービス業 に
 し わりあい ひじょう ろうどうしゃ けいかくてき いっせい
 占める女性の割合 は非常に高い。その女性労働者 が、計画的に一斉
 しょくばほうき ちい こうじょう
 に職場 放棄をするのである。パートで働く女性の地位向上 のため、
 ちんぎん かくさ ぜせい りゆう なに たんき
 男性と女性の賃金 格差の是正のため、など理由は何 でもいいが、短期
 てき はじ ちゅうしん しゃかい あた
 的にストをすることから始めて、男性中心 の社会 にショックを与える
 こうか おたが しえん だんたい かくりつ ろうどうしゃ
 。それで効果がなければお互いに支援団体 を確立 して、女性労働者 が
 いっせい しごと や しごと や けいざいてき
 一斉 に仕事を辞めることにする。仕事を辞めることですぐに経済的に
 こま ひとたち しえん だんたい つく けいざいてき おうえん とうぜんきぎょう
 困る人達 のために支援団体 を作り、経済的に応援 する。当然 企業 は
 や か み うんどう
 、辞めた女性の代替りの女性を見つけようとするだろうから、この運動
 はじ いぜん どうし れんらく きんみつ きぎょう さそ きよひ
 を始める以前から、女性同士の連絡 を緊密 にして、企業 の誘いを拒否

するキャンペーンを進めておく。この運動を通して、女性の重要性、
 女性の協力なくしては日本の社会が成り立たないことを、現在日本
 の社会をコントロールしている男性に認識させることができる。

今までの歴史を見ても明らかのように、利益、特典を享受している
 者が、それらを自ら捨て、他人のために貢献する、ということは
 ほとんどあり得ない。日本の社会の中心となつて、様々な利益、
 特典を享受している日本人男性も例外ではない。彼らの生きがい、
 男性中心、仕事中心の考え方、を変えさせるのは容易なことでは
 ない。男性が自然に考え方を变えるのを待っていたら、何十年
 かかるか分からない。これまで日本の男性を陰で支えて来た女性達が
 立ち上がり、早い機会に男性達に対して反乱を起こして、男性の目を
 覚ますことができ、男性、仕事中心の生活から、人間、家庭中心の
 生活へ移行させ、生活の質を向上させることができるなら、それは女性
 にとってのみではなく、男性にも子供達にも、また日本の社会
 にとっても歓迎すべきことではないだろうか。(速水健次郎「辛口
 エッセイ」)